

第3回小樽市議会「市民と議員の懇談会」 実施報告書

参加者：小樽市退職校長会

日 時：令和7年5月31日（土）午後2時から
会 場：市役所別館3階

小樽市議会

第3回小樽市議会「市民と議員の懇談会」

日時：令和7年5月31日（土） 午後2時

場所：小樽市役所 別館3階

次 第

- 1 開会
- 2 副議長挨拶
- 3 議員紹介（名簿配布による）
- 4 意見交換・懇談（ワークショップ形式）
- 5 ワークショップ結果発表
- 6 退職校長会様ご挨拶
- 7 閉会

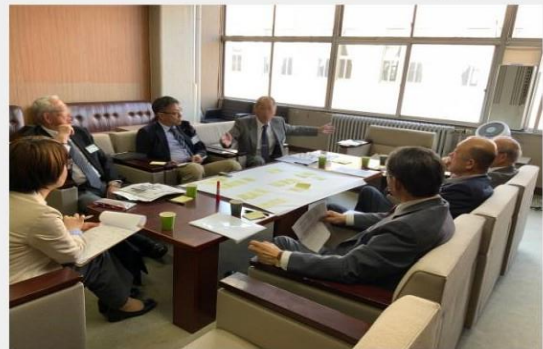
懇談会の様子



議場見学



1班



2班



3班



4班



5班



小樽市議会議員名簿

写真
議席番号 氏名
所属会派
所属常任委員会

(正) は委員長、(副) は副委員長

【議長】



22鈴木 喜明
自由民主党

【副議長】



11秋元 智憲
公明党
建設常任委員会

3 班



19小池 二郎
みらい
総務常任委員会(副)



16下兼 薫
立憲・市民連合
経済常任委員会



4 酒井 隆裕
日本共産党
厚生常任委員会(副)



13中鉢 淳二
自由民主党
建設常任委員会

1 班



2 白川 貴城
公明党
総務常任委員会



6 小貫 元
日本共産党
経済常任委員会



7 平戸 理史
みらい
経済常任委員会



14佐藤 奈緒美
自由民主党
厚生常任委員会



17面野 大輔
立憲・市民連合
建設常任委員会(副)

4 班



12松岩 一輝
自由民主党
総務常任委員会(正)



1 新井田 邦弘
公明党
経済常任委員会



18 高橋 龍
立憲・市民連合
厚生常任委員会(正)



8 白濱 聡
みらい
建設常任委員会

2 班



3 松井 真美子
日本共産党
総務常任委員会



15中村 吉宏
自由民主党
経済常任委員会(副)



9 橋本 布美絵
公明党
厚生常任委員会



21前田 清貴
みらい
建設常任委員会(正)

5 班



25佐々木 秩
立憲・市民連合
総務常任委員会



10横尾 英司
公明党
経済常任委員会(正)



20中村 岩雄
みらい
厚生常任委員会



5 高野 さくら
日本共産党
建設常任委員会

第3回市民と議員の懇談会 概要報告

開催日時：令和7年5月31日 午後2時

開催場所：市役所別館3階

実施団体：小樽市退職校長会

テーマ：人口減少対策～子育て世代が暮らしたくなる小樽のまちづくり

【ワークショップの概要】

ワークショップ：1班 ワークショップ会場：第2委員会室 テーマ：子ども子育て支援、学校教育	議員：5名 校長会：5名
ワークショップで出た意見のやり取り	
<p><子育て環境について></p> <ul style="list-style-type: none">・子どもの増加のための具体策として自分なりに思うことあり ⇒後志19町村を見た中で元気な自治体の一つとして共和町が挙げられる。3つある保育所の一つが60人→70人→80人と年々増えている。それは、らいでんスイカ・メロンのブランド化がされたことによってUターンして農家を継ぐというのが確立した模様。・子どもの遊び場の確保・子どもを日中預けられる場所・幼保の問題、指導者の負担 ⇒地元に残る子どもがいない（賃金の面で）、子どもを産める場所も無くなっている。保育所も近くの保育所に入れない。安心して住めることが大事・中央に出て技術を得た人は戻ってきてから活躍できる。その技術を役立てること・小さいうちから本物を味わって完成形を育てる環境が必要ではないか。 <p><学校統廃合について></p> <ul style="list-style-type: none">・子どもが少なく将来小樽市が無くなると予想されている。合わせて学校も統廃合されてとても心配・学校の統合のスピードと児童・生徒の増減を考慮すると、各校で各学年2学級を確保できるのか <p><学校等の教育について></p> <ul style="list-style-type: none">・小樽は歴史的建造物がたくさんあり、当時のものがそのまま残っている。歴史を感じられる場所があり、本物を見て触れられる教育が必要・文字の読み書きが不十分な段階でのクロームブックの学習に疑問が残ります・体験の機会を与えたい・小中学生が目的意識を持って学校生活を送れること	

- ・小樽のビジョン、夢を持ってまちづくりの議論を進めていかなければいけない。
- ⇒立地適正化計画は余りに先の話なので自分事にならないが、今の子どもたちに託すことであり、青写真になるのか絵空事になるのか、本気度を知りたい
- ・子どもも一員として未来の小樽を夢見る仕組みを考えると良いのでは
- ・成功体験、間違い、失敗をたくさん経験して本物になれるという機会が必要
- ・子どもが議場で子ども議会をやったら感激するのでは。みんなでまちづくりをして声が生かされたら自信につながる

<人間関係について>

- ・平成13年の大阪教大附属池田小学校で子ども8人、兵庫で子どもが虐殺される惨事が発生した。小樽からこういう惨事を出してはいけない
- ⇒ふれあいサポート活動に発展。21年経過。これを機に全国小中高校の施設が開始
- 子どもを守るためにはどうしたら良いか、退職校長会も人が減っている
- ・学校、地域、家庭で子育てを協力し合い、今学校で取り組んでいる。3者でお互いに取り組めたら子育ても発展するのでは
- ・理由がはっきりしない不登校児童が増えているように感じる
- ⇒心のモヤモヤ、コミュニケーションが苦手、勉強が分からない
- ・ママ友はいるけど本当の悩みを打ち明ける人がいないのかな
- ・子ども同士で支え合い、教え合う場が少なくなっている
- ⇒大人になっても近所付き合いができない大人を作っているのではないか

ワークショップのまとめ

- 子どもたちもまちづくりに参画する機会を持ったらどうか
- 経験・体験で人間として豊かにしていきたい
- 若い人が働ける（戻ってこられる）基幹産業が必要
- 育てやすい環境、産みやすい環境が必要
- 大人側は様々な個性の子どもを理解し、埋没しないようにコミュニケーション・ふれあいの機会を作ることが必要

第3回市民と議員の懇談会 概要報告

開催日時：令和7年5月31日 午後2時

開催場所：市役所別館3階

実施団体：小樽市退職校長会

テーマ：人口減少対策～子育て世代が暮らしたくなる小樽のまちづくり

【ワークショップの概要】

班名：2班 会場：第2応接室 テーマ：市民福祉	議員：4名 校長会：4名
ワークショップで出た意見ややり取り	
【福祉施策】	
<ul style="list-style-type: none">・たる特健診について、ポイント等の方法は良いと思う。福祉活動（高齢者の健康づくりイベントへの参加も含め）にも導入する仕組みづくりをするべき。・人口減少の一因として、若い女性の市外流出が考えられる。その結果、子ども（出生数）の減少につながる。若い女性の就労の場が増えることが重要と思う。・ふれあいパス制度について、札幌は減額だが、小樽市は半額面倒を見てくれる制度で助かっている。今後も続けてほしい。・人口減の現状下、人口を増やすことは大変である。2024年の小樽市の出生数が311名とのことであるが、これを単純に市内小学校17校で割ると、1校あたり18人の計算となる。新たな学校再編に取り組むことも必要と思うが、人口増に向けた取組がもっと必要であると思う。・議会だよりや広報には、福祉関連の議論や情報が掲載されている。これをこの先も続けてほしい。	
【学校、子ども、子育て】	
<ul style="list-style-type: none">・修学旅行費用の支出が困難な家庭への対応について、以前教諭時代、学校に相談に来校された保護者と話をした。学校でどこまで対応したら良いのか迷いもあったが、当時自分の口から、生活保護の説明をし、地域の民生委員につないで対応してもらい、無事に生活保護支給へとつなげられて、当該生徒は修学旅行に参加できた。学校や担任がどこまで対応すべきか。このケースは関わって結果的に良かったが、課題だと思う。・これまで、開かれた学校づくりということで、地域とつながりを持つ取組を各学校でも行ってきた。しかし、先日のニュース報道にもあるとおり、保護者が知人を伴って来校し、暴れるというケースも発生する中で、開かれた学校の対極に、安全を確保することの課題が生じる。学校と外部との関係、セキュリティ対策等をしっかり考えなければならないものと思う。・子どもに福祉教育を施すべき—小樽でも共同募金が行われているが、こうした福祉活動への参画の必要性を教育の場で行うことが重要ではないだろうか。以前は学校で、募金箱を作るキットを生徒に配り、実際に組み立てて、自宅で少額のお金を募金箱に入れて、貯まったら	

持ってくるということが行われていた。こうした取組を行うことで、その募金がどのように使われるのか、また、個人それぞれが社会貢献を行うことの重要性を学ぶ良い機会となる。ぜひこうした機会を教育現場に作っていただきたい。

- ・子どもの遊ぶ場所—自分たちで取組を行う場の提供を—。子どもたちの中に、ダンスに興味を持ち、学校で学んだことを生かして、友人たちとともに練習したいという声がある。しかし、ダンスを練習するには、鏡を備えたスタジオのような施設が必要だが、そうした施設は小樽市内にあるのだろうか。子どもたちが自主的に取り組めるような施設を用意する必要があると思う。
- ・親の養育能力の欠乏状態、ヤングケアラー問題、虐待など、起こり得る世の中で、もっと子どもを大切にしてほしいと思う。老人、子どもなど（社会的弱者）に手を差し伸べてほしい。
- ・赤ちゃんポストをもっと広げてほしい。誰も気付かない中で、妊娠、出産をする人がいる。とりわけ、中学生、高校生で妊娠し、親も周囲も気付かないまま一人出産し、子どもを放置するという事案が出ているのを見ると、大切な命を救うことが大切であると痛感する。
- ・学校誘致を積極的に行ってほしい。先日の報道で、観光と介護の専門学校が小樽に進出することであった。小樽海上技術短大のような学校が小樽にあることはありがたいことだ。人口減の課題もテーマに話が出ていることもあるが、学校が小樽にできるよう、誘致を進めてほしい。

【高齢者対応】

- ・老老介護や、50-80 問題などについて、悲劇を生まないために、もっと行政も積極的に取り組んでほしい。50-80 問題は、就職氷河期で収入の少ない 50 代の世代が、高齢の親の面倒を見て、家計は親の年金に頼っている状態。就職氷河期の子が、生計を立てられるような就労を支援する必要があるのではないか。
- ・独居高齢者について、町内会でも時々見回り等を行うが、知らないうちに亡くなるケースがある。近所のつながりが希薄ゆえの課題である。こうしたことも課題と思う。
- ・高齢者の除雪についての課題。近年の総合除雪は行き届いていると思うので、今後もこの状況を継続してほしい。一方で、高齢者は、自宅周辺の除雪に難儀している。除雪の補助（福祉除雪など）の充実をしてほしい。

【公共交通、公共施設】

- ・バス路線について、最近、減便が続き、困っている。バス会社も事情はあるだろうが、不便さが増している状況だ。
- ・バス路線について、最近、自宅近くの路線が廃止されるとの情報を得た。減便は市内で続いているものの、朝夕の路線だけでも走ってしてくれるのはありがたい。廃止と減便では大きな差がある。しかし、乗客が極端に少ないということもこういう結果の要因となっているので、仕方がないかとは思いますが。
- ・バスの減便について、施設の近くや街中、駅前には便利だが、それ以外の場所は不便だ。
- ・プール併設の総合体育館建設について、建設が 2 年遅れるということを知った。これからの人口を見ると、どのくらいの規模のものを作ると良いのかは明らかだ。利用する人たちもいるので、早く作ることが大切だと思う。

- ・シニア世代の生きがい、健康づくりについて、体を動かす教室（ヨガ、体操など）、自分（男性）も参加しているが、参加者が少ない。インストラクターが指導していて良い内容であると思うが、20人参加していて男性は自分一人。啓蒙、周知が不足しているのではないだろうか。こういうメニューを続けてほしいし、もっと多くの人に参加してほしいと思う。それこそ、こういう健康づくりのイベントに参加することで、（たる特健診のように）ポイントがもらえて、貯まると何かもらえるということもモチベーションづくりに良いのではないか。

【地域】

- ・町内会に関連して、班長が輪番で回ってくる。該当の地域で、皆仲良く、というわけにはいかない。苦勞する家もある。地域でまとまりを、というのが難しい状況。
- ・つながりのある地域づくりが必要。町内会、関係団体との連携は、役所中心になって進めてほしい。

【まとめ】

- ・子ども、高齢者、地域、家族間の関係性の充実が必要。PTA 世代の人々も町内会に入ってほしいと思うが隔たりがある。
- ・子どもを守る、高齢者の安全、教育など、地域のつながりが重要で、このつながりを今後どのように創出するかが課題である。

第3回市民と議員の懇談会 概要報告

開催日時：令和7年5月31日 午後2時

開催場所：市役所別館3階

実施団体：小樽市退職校長会

テーマ：人口減少対策～子育て世代が暮らしたくなる小樽のまちづくり

【ワークショップの概要】

ワークショップ：3班 ワークショップ会場：第1応接室 テーマ：生活基盤	議 員： 4名 校長会： 4名
<p>ワークショップで出た意見ややり取り</p> <ul style="list-style-type: none">▪ 町内会の役員のなり手がいない 町内会の役員のなり手不足では、市はスマホ・デジタル活用を促すがネックになり抵抗がある 町内会の役割が「ゴミ」と「街路灯」ではメリットがないのでは？ 総連合町会任せでなく、役員の年齢や任期、男女比など実態を調べて対策することが必要では私は7年会長をやっているが前任者は20年▪ 望洋台のジャンプ台はどうなっているか 望洋台のジャンプ台は過去の計画を反省すべき、負の遺産になっている▪ 空き家問題 空き家問題では町会が調査に協力しているが、居住時は分かるが転居時は、入院なのか市外の子と同居なのか分からない。 小樽市も結構PRしているが、旅行者と居住者は別。 各地を旅行するが、小樽市は夜子どもが歩ける安全な街だと感じる 小樽市の良さを知ることが大切では▪ 歩道がない 桜の阿波タウン途中までしか歩道がない。結構なスピードで危ない。 ふれあいサポーターをしているが、冬季児童生徒は車道を歩かざるをえない。 学校始業時に除排雪してくれて助かります。	

▪ 市内のバス減便

本線が1時間に1本程度となり望洋台線も大幅減便となり利用しづらい

パークゴルフサークルもバスの時間が合わず自家用車の乗り合わせをしているが、事故の責任を考え一筆取っている。老後の楽しみにも行けない

タクシーは夜中、早朝予約できない

【ワークショップのまとめ】

人と人のつながり、結びつきが大切。

第3回市民と議員の懇談会 概要報告

開催日時：令和7年5月31日 午後2時

開催場所：市役所別館3階

実施団体：小樽市退職校長会

テーマ：人口減少対策～子育て世代が暮らしたくなる小樽のまちづくり

【ワークショップの概要】

ワークショップ：4班 ワークショップ会場：第1委員会室 テーマ：環境・景観	議員：4名 校長会：4名
ワークショップで出た意見ややり取り	
<ul style="list-style-type: none">・小樽には小学校から大学まで揃っている点を生かし、地域全体での教育連携をするべきではないか。特に、高校生が地元の特産物を活用した商品開発を行う事例を紹介し、その成果を小学生の給食に提供することで、地域への愛着を育むことができる。・また、小中高大が連携し、地域に根ざした教育を行うことで、子どもたちが地域を意識し、将来的に地域に貢献する人材を育成できる。このような連携は、子どもたちが地域に残るだけでなく、地域を離れても地域を意識する人材を育てることにつながる。・地域が主体となって教育を支援する仕組みを構築し、教員の異動に左右されない持続可能な教育体制を確立することなどが重要である。・芸術・文化・科学交流を推進することで、国際交流を深めることができ、ひいてはそれが平和外交につながっていくと考える。・小樽市自治基本条例には自治について明確に描かれていない。また、まちづくりという言葉はたくさん出てくるが、基本的な考え方をまちづくり条例などの制定で明確化する必要がある。・観光ガイドの役割は非常に重要で、観光客の満足度を大きく左右する。良いガイドはリピーターを増やし、観光客とのつながりを深める。さらに、その後の移住につながるとも言える。・例えば水天宮に観光ガイドを常駐させることで、そこから堺町や北運河への周遊につながることもできると考える。・観光客の増加に伴い、民泊が増えている現状について言及し、地域住民と観光客が互いに理解し、満足できる観光スタイルを確立する必要がある。特に、ゴミ問題などの課題に対して、ルール作りや啓発活動が重要である。・海外からの観光客とのトラブルを文化交流の機会と捉え、積極的にコミュニケーションを図ることで、相互理解を深めることができる。・小樽の町並みを歩きながら楽しめるような観光コースを開発し、歴史的なエピソードや文化的な背景を紹介する立札を設置すると良い。	

- ・札幌の若者を呼び込むため、銭函地域などではマンション建設を推進すると良い。小樽の環境の良さをアピールし、札幌の若者が小樽に住みやすい環境を整備することで、人口減少対策につなげることができる。
- ・町内会での安否確認や見回りなどで、住民の安心感を高め、地域福祉の向上につながる。
- ・地域温暖化対策として植樹活動を推進し、市議も積極的に参加してもらい、市民への啓発を強化したい。
- ・小樽の空気の良さはまちのPRに活用することができる。特にアレルギーを持つ人にとっては、小樽の空気の良さは大きな魅力となり、移住につながると考える。
- ・街路防犯灯の整備、除雪の徹底などで安全で住みやすい環境づくりが地域活性化につながる。

第3回市民と議員の懇談会 概要報告

開催日時：令和7年5月31日 午後2時

開催場所：市役所別館3階

実施団体：小樽市退職校長会

テーマ：人口減少対策～子育て世代が暮らしたくなる小樽のまちづくり

【ワークショップの概要】

<p>ワークショップ：5班 ワークショップ会場：第1委員会室 テーマ：生きがい・文化</p>	<p>議員：4名 校長会：4名</p>
<p>ワークショップで出た意見ややり取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活基盤には交通の要素は大事。塩谷地域は高速インターが基点になる可能性がある。 ・移動手段があれば住む場所にも選ばれるので交通手段の整備、改善が重要。 ・小樽市民はJRを活用して小樽市内を移動するという感覚が少ない。 ・手宮ターミナルがあったときは便利だったが、現在上屋はあるが、待合のスペースもなく、バス停までの距離もあるし、横断歩道を渡る回数も多く、不便である。 ・集まって趣味を生かせる場とともに安く使える場を。 ・転居一つとっても窓口や手続が複数あるので大変。市役所窓口や手続を一か所で済ませられるようにしてほしい。 ・体育施設や文化施設など公共施設からの距離は利用者数に影響する。バス停一つくらいが目安で、それ以上になるとハードルになると感じている。 ・高齢者の学ぶ場がウイングベイでは不便と感じる。 ・高齢者が楽しく、安全に充実した生活をするために必要なことを考えてほしい。 ・高齢化の中で、日常生活の維持をどうするか。買物や通院、テレビ受信などの根本になるものの解決を。 ・旧祝津小や旧豊倉小などを宿泊研修の場にするなどの柔軟な考えも含めて有効活用を。 ・文学館・美術館のトイレなどは観光客も利用するが、現状であれば誰も利用したがないので、もっときれいに整備してもらいたい。 ・美術館の駐車場の除雪を。 ・堺町通りにばかり人が集まっている印象があるので、市内広域に広がるような工夫を。 ・小樽駅前、中央通りや日銀通りなど観光客などに見せるべき場所であるのに、除雪した真っ黒い雪山が道路わきに残っている。 ・小樽には特に塩谷蘭島など人口減が続く地域に忍路の環状列石をはじめ様々な貴重な遺跡、歴史遺産がある。こうした遺産を活用するためにも、その近くにカフェなど人の集まれる場所を若者が参入して運営できるような施策があれば良い。 	

- ・小樽の歴史は建物だけじゃない。若者向けに発信を。
- ・文化・歴史を大切にしまちづくり。
- ・若者が住みたくなるまちづくりのため、若者が離れていく原因を把握して。
- ・SNSで火がつけば色々な所が観光客の来る所になっている。
- ・小樽市は全国的にも知名度があるまちだが、観光だけでなく住んでいる親子などが楽しめる施設を充実させてほしい。
- ・学校の授業の一環で、ガラス制作や屋形船での港湾見学などを子どもたちが体験しているが、保護者も同時に体験することができれば、親世代が小樽の魅力を再発見することにつながるのではないか。
- ・室内で遊べる場所や無料で遊べる場所が札幌などに比べて少ない。
- ・生涯学習講座で学ぶ場が少なくなっているので、小樽駅前にスペースを。
- ・町内会の行事を通しての地域住民と子どもの交流が必要。地域内の消防署や消防団などと協力して施設見学や体験などの親子イベントも実施している。
- ・子どもたちが後ろを向いている子どもに向けて雪玉をぶついたり、後ろから走ってぶつかっていくなど、一步間違えばケガをする危険な遊び方をしていたりすることが気になっている。
- ・町内や地域でのアナウンスを拡充したり、声掛けの機会を増やしたりする取組も良いのでは。
- ・町内会行事への参加を増やす取組が大切。
- ・長期休暇期間中の自由研究などの子どもの作品参観をもっと広く展示することや多くの人に見てもらう仕組みを。
- ・地域の方が子どもたちの通学時の挨拶を通じて交流することにより、風通しの良い地域づくりにつながる。
- ・地域での挨拶は、数を重ねることが大切でつながりが深まると感じている。
- ・子どもたちの見守りには教育関係者だけでなく、地域の方や地域の目が必要と感じており、それらがあれば子どもたちの意識もかなり変わることを実感している。

【ま と め】

- ・市内で子どもと保護者が一緒に多くの体験活動ができる仕組みがあれば、親世代が小樽の魅力を再認識することができ、小樽市に住んでいて良かったと思ってもらえることにつながるのではないのでしょうか。また、親子で行くことができ雨の日も遊べる屋内の遊び場ももっと必要です。
- ・小樽市の交通の拠点である小樽駅前に図書館機能や生涯学習機能などの複合的な機能を持った施設が必要ではないのでしょうか。
- ・小樽市の魅力的なスポットはもちろん、歴史や文化などの活用や磨き上げと発掘などとともにいかにして若者と結びつけるのかを考えることが必要であり、そのような施策を実施してもらいたい。
- ・子どもや住民同士のつながりを深めることが重要です。町内会や地域が単独ではなく、同じような観点を持って行政や目的に賛同する企業や団体と協力し合っってイベントや事業を実施することができる仕組みが必要ではないのでしょうか。
- ・生きがい・文化の活動について考える際、公共交通は切り離せない課題です。公共交通は生活の

基盤であり、地域に住む・住まないという判断に大きく影響します。重要な課題であるので議論を進めていただきたい。

- ・生涯学習や芸術文化を含めた公共施設のあり方を考える際、公共交通を利用した際の距離や手続の種類と窓口、そしてオンラインを含めた方法や手段など、しっかりと市民の目線に立って考え、設定していただくことが大切であり、十分検討していただきたい。
- ・公共施設や文化施設の整備やインフラの維持管理は、その目的に合わせて行うのはもちろんだが、観光客の利用や目線などを考えるという本来の目的以外の視点も重要であり、縦割りの考え方ではなく、横断的かつ複合的な視点での整備等を行っていただきたい。
- ・潮ねりこみの梯団名などを見ても議員がねりこみに参加していることが分からず、市民にも参加していることが伝わっていないと感じる。このような機会を生かして、もっと身近な存在であり、親しみやすい議員となっていただきたい。

第3回小樽市議会「市民と議員の懇談会」 結果報告書

【総務常任委員会】

質 問	答 弁
<p>① 望洋台ジャンプ台、どうなっているのか、過去の計画反省すべき、負の遺産になっている</p>	<p>① 望洋シャンツェは、本市のスキー競技の普及と、平成11年開催の港小樽国体の際に使用するため、平成10年に建設されましたが、平成19年度以降は使用されず、また、全日本スキー連盟の新基準に対応するため、大規模改修が必要となることや、競技人口の減少が続いていた状況から、費用対効果が見込めないと判断し、平成28年、体育施設としての用途を廃止し、現在供用を停止しています。</p> <p>望洋シャンツェは、老朽化のため、活用は難しい状況ですが、本市の他の体育施設については今後は社会情勢の変化、スポーツ人口やニーズ等の変化を勘案し、さらなる利便性の向上に努めてまいりたいと考えております。</p>
<p>② 長期休暇期間中の自由研究など、子どもの作品、参観をもっと広く展示することや、多くの人に見てもらおう仕組みを</p>	<p>② 自由研究作品を広く展示する仕組みについてですが、総合博物館では、リニューアルオープンした平成19年より、自由研究作品展を毎年開催しています。これは、市内の小中学校を初め、高校や団体等に対して、夏休み明けに子どもたちの自由研究作品を募集しまして、推薦いただいた応募作品は全て博物館本館で、11月ごろに2週間ほど展示公開しています。令和6年度は、14小学校から50作品の応募があり、11月9日から24日まで、総合博物館本館で展示し、市民の皆様に広く御覧いただきました。効果的な情報発信に努めながら、今後も引き続き実施していく予定です。</p>

第3回小樽市議会「市民と議員の懇談会」 結果報告書

【厚生常任委員会】

質 問	答 弁
<p>①ヤングケアラーや児童虐待など、複雑化する子どもを取り巻く問題に市としてどう取り組むか。</p>	<p>①令和6年4月に「こども家庭センター」を設置。一つの機関では解決が困難なため、児童相談所、警察、学校など様々な関係機関と連携・協働して対応していく。</p>
<p>②老老介護や8050問題に対し、行政が積極的に取り組むべき。自立に向けた支援（就労支援など）についての考えは。</p>	<p>②令和6年度から「重層的支援体制整備事業」を開始。地域共生コーディネーターが個別の事案に応じ、関係機関と連携しながら就労支援を含む自立に向けた支援を行う。</p>
<p>③高齢者向けの福祉除雪制度の拡充を求める声がある。現状の利用状況、拡充の方針、また拡充が困難な場合の課題は何か。</p>	<p>③制度は高齢世帯の生活基盤を支える上で重要であり、継続が必要。当面は現行制度を維持する方針。拡充の課題は「事業費」と「担い手（ボランティア等）の確保」である。</p>
<p>④スマートフォン利用に抵抗がある人への働きかけや、対象者の拡大について市の考えは。</p>	<p>④現在のスマホ教室は、町内会活動のデジタル化（電子回覧板導入など）と役員負担軽減が目的。デジタル化のメリットを丁寧に説明し、少しずつ推進していく。</p>
<p>⑤民泊の増加に伴う近隣住民とのトラブル（路上駐車など）について、市への相談状況と対応は。</p>	<p>⑤過去2年間で2件の相談があった。1件は除雪に関する内容だったため道路管理者に、もう1件は当事者間の問題と判断し弁護士への相談を助言した。</p>
<p>⑥民泊施設から出る事業系ごみが家庭ごみステーションに出される問題に対し、ルール違反事業者への市の対応は。</p>	<p>⑥苦情は北海道民泊コールセンターが窓口だが、市としても違反が確認された事業者には直接、事業系ごみの適正な処理方法を指導している。</p>

第3回小樽市議会「市民と議員の懇談会」結果報告書

【建設常任委員会】

質 問	答 弁
<p>①生涯学習講座で学ぶ場が少なくなっている。「JR小樽駅前広場再整備計画」の中では公共施設を整備するとあるが、生涯学習講座を整備してほしいと思うがどうか。</p> <p>②桜の阿波タウンの途中までしか歩道がなく、冬季児童生徒は車道を歩かざるをえなくて危ない。学校始業時には除排雪して助かる。歩道の確保に関する市の考え方と冬季の児童生徒の通学路の安全確保について徹底してほしいと思うがどうか。</p> <p>③文化・歴史を大切にしまちづくりでは、小樽市で現在「歴史的風致維持向上計画」の策定作業が最終段階を迎えている。市民が積極的に参加できる具体的なプログラムや機会をどのように提供していくのか。</p>	<p>① 現在具体的な施設整備について決まっていることはありません。</p> <p>② 桜8号線は約100m歩道未設置の状況となっており、当該箇所は道路用地幅が狭隘で歩道を設置した場合、車両が安全に通行できないため歩道の確保は困難であると考えます。車道除雪は除雪第二種路線に位置づけられており、降雪量が15cm以上見込まれる場合、必要に応じて除雪を行う路線となっております。歩道除雪は除雪A路線に位置づけられており、降雪量10cm以上の降雪が見込まれる場合、必要に応じて除雪が行われる路線となっております。また、安全確保の対策としては、1回目の排雪作業時に歩道と車道の雪を全て排雪し、歩道空間の確保に努めているところです。</p> <p>③ まずは「歴史的風致維持向上計画」について市民の皆様にご覧いただくことが重要です。本計画は330ページにも及ぶため、計画の概要版などを作成し、HPやSNS、町内会の回覧板などで様々な媒体を活用して幅広く周知を図っていきたく考えています。その上で計画に記載している各種事業への市民参加や意見をいただくことなどを考えています。</p>

第3回市民と議員の懇談会に参加された
皆様へのアンケート

～結果～

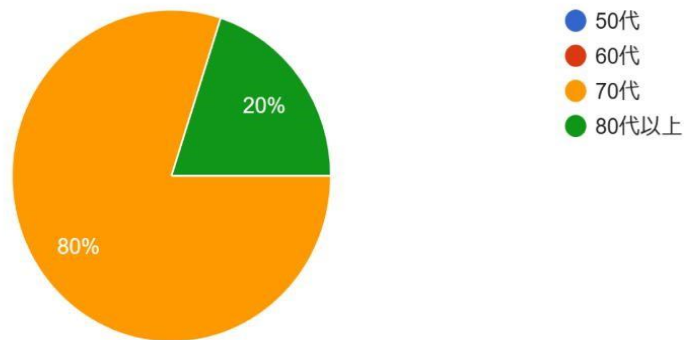
参加者 21 名・アンケート回収 15 名（回答率 71%）

第3回「市民と議員の懇談会」アンケート結果

参加者 21 名

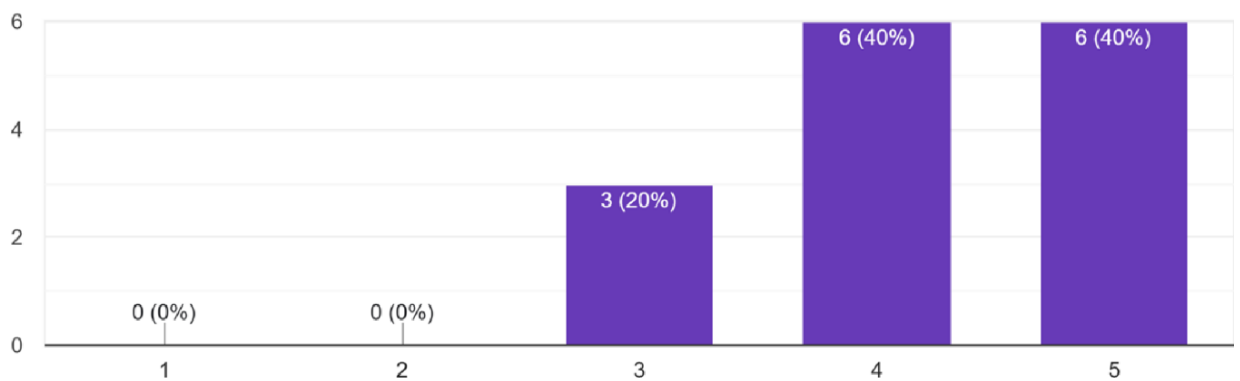
アンケート回答者 15 名

問1：年代について
15件の回答



・ 70代 12名 (80%) ・ 80代以上 3名 (20%)

問2：開催日時について
15件の回答



悪い1～良い5

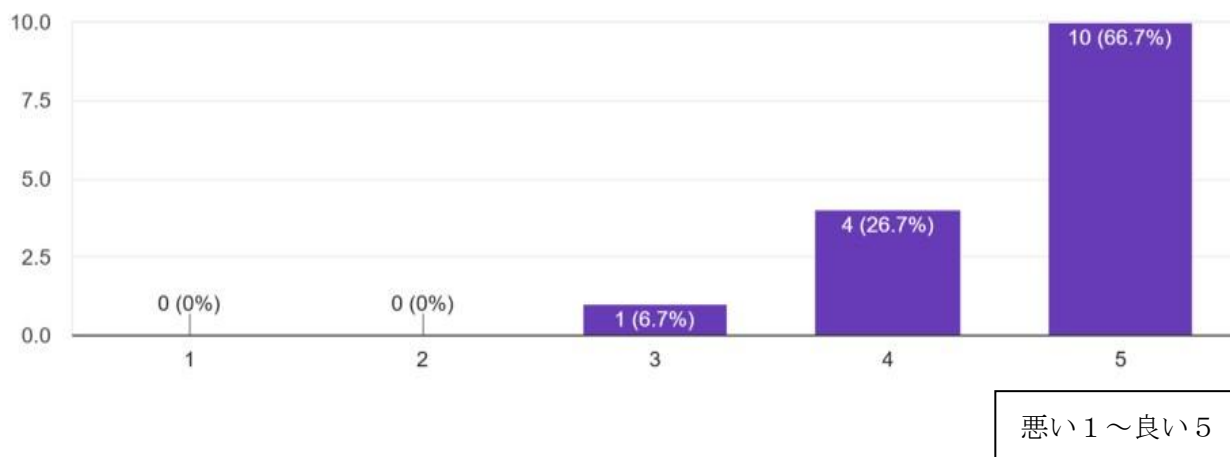
問2：開催日時についてのご意見をお聞かせください

10件の回答

- ・ 小学校の運動会と重なってしまった。
- ・ 集まりやすさを考えれば良い。
- ・ 早めに案内をしてほしい。
- ・ 良かったです。
- ・ 土曜日で、ちょうど良かったです。じっくり話す時間が確保されたように思います。
- ・ もう少し早い時期でも良い。
- ・ 運動会シーズンであることが少々気になります。(議員さんも含めて)。
- ・ 特にないです。
- ・ 土曜日の開催は良かった。
- ・ 昨年度中(もう少し早め)に決まっていると良かったと思います。

問3：開催場所について

15件の回答



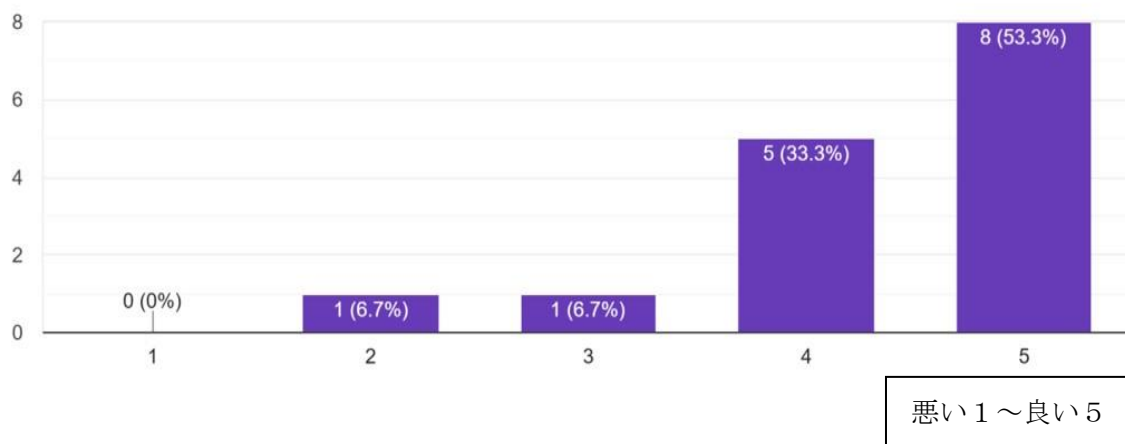
問3：開催場所についてのご意見をお聞かせください

6件の回答

- ・ 普段足を踏み入れたことのない場所で充実した話合いができました。小樽市政について新たな気付きもありました。
- ・ 駐車場も広く、とめやすい。
- ・ 適した場所だと思います。
- ・ 議事堂も見学できて良かった。
- ・ 集まりやすく、中心地で良いと感じた。
- ・ 集まりやすく、大変良かったと思います。

問4：ワークショップについて

15件の回答



問4：ワークショップについてのご意見をお聞かせください

14件回答

- ・多くの意見を言うことができるのは良かった。
- ・楽しかったです。
- ・進行役の議員さん、ご苦労様でした。
- ・時間を区切ってほしい。
- ・多くの方々の意見を聞くことができ、新たな気付きもありました。良い機会を作ってください、感謝します。
- ・議員さんとお話し、日常の仕事ぶりを見聞きすることができ、大変さを実感しました。ご苦労様です。
- ・意見を出しやすい運営が良かった。
- ・色々なご意見を聞いて勉強になりました。
- ・議員の皆さんの意見も聞きたかった。付箋に意見を書き、発言するのは我々だけであったことが残念だった。付箋に書くのは短い言葉であっても、我々の説明が長くなってしまった。
- ・ワークショップに入る前に、テーマについて事前にガイダンスが欲しかった。テーマが大き過ぎて、若干悩んだので。
- ・多くの意見が出て良かった。
- ・少人数で色々意見を出せるので大変良かった。
- ・多方面からの多くの意見を聞いて良かったと思います。
- ・テーマごと少人数での懇談会形式でしたので観点がはっきりしていて密度の濃い話し合いができた。

問5：議会に関する情報をどのように手に入れていますか。また、どのようにすれば議会の情報を知ることができると思いますか

14件の回答

- ・議会だよりだけです。あとは議員からの広報です。
- ・広報おたるを活用しています。
- ・市議会だよりを読んでいる。(4件)
- ・小樽市民ニュース。
- ・小樽市議会だより、小樽ジャーナル等で情報を得ています。(2件)
- ・市のホームページなど。
- ・新聞等。
- ・議会広報もありますが、字が小さい形式なので、若い市議さんのSNSをよく見えています。
- ・議会だよりや議員の資料報告などが主。現状以上に取り組むことは難しいのでは。新聞の市内(道内)欄も活用してもらいたい。
- ・配布されてくる文章を読ませてもらっています。

問6：教育についての課題に感じていることなどがあればお知らせください

14件の回答

- ・課題山積みですが、解決可能な所から着手することが大切では。
- ・学校に負担を掛けないように、防災など特別な場合はあり。
- ・教育予算について充実を願います。
- ・家庭での子育ては、両親の忙しさのために、なかなか上手く行かないように思う。
人と人とのつながりを育てる地域、家庭の連携は大切。
- ・生徒指導について。
- ・教職への関心が負に働くことは問題。情熱ある若い方が途中で折れることを防ぎたい。より良く成長する教員が教師として報われるように法的な支援システムが機能してほしい。
- ・グループ内でお話をさせていただきました。
- ・予算が少ないこと、現場教員の負担増、子どもの体験的な活動が少ないこと(昨年に行われた小樽市の子ども議会はとてもいい試みでした)。
- ・教員が子どもに接する時間が少ない。文科省や局への報告が多すぎて、じっくり教材研究や子どもと向き合う時間が少ない。
- ・児童数の減と若年女性が小樽から離れている。
- ・今学校では、コミュニティースクールを目指している。学校・地域・家庭が連携していけば子どもを良く育てられるのではないかな。
- ・SNSの扱い方や教育のあり方が課題だと思います。
- ・全国的な教員不足(教職希望者が減少)。
- ・現場の大変さを考えると、定数増が早晩の課題。

問7：その他、今回の懇談会や議会に対するご意見、ご提言があればご記入ください

10件の回答

- ・大変良かったです。次回があれば議員の先生方からも発言していただきたいです。
- ・大きなテーマや問題やら、司会の方に苦勞を掛けるが任せる。
- ・多くの意見（全体を含め）を拝聴できて良かった。
- ・今後、長いスパンでの展望を持った政策議論が行われるよう希望します。
- ・大変良い懇談であったと思う。
- ・より良い小樽を創造するようにワンチームとして活動を望みたい。
- ・司会役をされていた白濱聡さん、お疲れ様でした。また、同じ4班になった若い議員さんのお考えを聞きたいと思いましたが、隣の席の市議さんとしかお話しをする機会がなくて残念でした。そして、市民と議員の懇談会ということですが、懇談ではなく一方的に我々が話していました。これからは若い人たちの時代で、若い人たちに小樽を支えてもらわなければなりません。我々高齢者の意見も大切ですが、若い市民、若い議員さんで懇談を深めていただきたいです。
- ・課題が山のようにあるが、その中でも目玉を3～4つ作って議会と行政が協力して取り組むことが大切ではないか、あり過ぎて、どれに手をつけていいのかで終わってはいけないと思う。
- ・毎年、退職校長会との懇談があれば良い。
- ・良い経験をさせていただきました。